

































くらり消ゆるされど人の妬のほりまけるよき。つゆは  
月よどみの疑いもりく。お後よさつる病もかゝ。其  
方の秋き。一門の悔も。腰帯の地を。ふ安の林。おま  
折橋よ。やとまふらもなかりき。びくくも。かうき。唐も。  
大和も。女のな情。うなかくの。こく。女と。おる。村も。  
薛能。が。骨折。け。こ。ころ。よ。物。心。

帰雁

錢起 吳興の人。天宝中。季進士。  
終。功。郎。中。

瀟湘何事等東園 少碧沙ぬあをる昔

瀟湘二つのいの名瀟湘八京平海落一の影あり馬のるるも東の他  
どうぬ。瀟湘の他。長安の他。二記あり。長安の流り。

二十五六結強也月 不勝清怨却花来

二十五六強の結う。日本むく。り。不勝の怨。う。心。来。あ。らん。二流の  
魚。り。う。らん。と。い。い。や。

詩云 今や紀の原伊勢の二。麦は金つる旅安。燕の  
おとつまぶらけて。うき。三。越。語。は。ゆ。らん。う。熊。野。乃  
奥。お。春。う。つ。波。お。智。の。ま。後。漸。く。と。白。雲。ま。は。り。若  
お。よ。せ。き。使。り。う。ま。空。田。の。浦。若。整。の。伊。原。も。白。雲。  
雲。の。か。し。い。海。吹。ま。ら。よ。翠。華。の。危。う。松。凡。の。名。月。よ。教  
わ。げ。て。お。心。人。の。爪。音。う。琴。板。よ。あ。ま。一。層。の。ひ。も。名  
と。り。ひ。ん。ら。う。ば。二。う。い。夜。に。花。来。ら。せ。

名賈媽 賈母字は仙荒陽の人。来。該。陽。韓。愈。教。つ。文。と。他。う。  
む。お。お。海。原。名。三。葉。の。ら。ま。浮。屋。文。字。を。土。後。嘆。牛。肉。死。

張籍 字。文。昂。和。列。鳥。の。人。登。進。士。先。韓。愈。よ。め。て。お。園。子。惜。主。  
歴。必。主。客。之。中。の。終。園。子。司。業。

僧房著款花 出寺吟行日已斜























の宿るる... 唐中... 人の習... 今や... 山... 流... 去... 是を...  
の宿るる... 唐中... 人の習... 今や... 山... 流... 去... 是を...

詩意 入る人もなき枕乾の花。臨造の村は盡く。山は帆。里まてころよく... 何と修徳のちがま川。只さく... 何と修徳のちがま川。只さく... 何と修徳のちがま川。只さく...

送齋山人

齋山人... 山人... 山人...

韓翃

字の君平... 陽の人... 天宝... 中... 仕... 中... 韓翃...

香鼎事 仙人白老云

揮頭飯法又家風

白老云ハ... 白老云ハ... 白老云ハ... 白老云ハ...

紫門流水依然在

一治言山萬木中

依然ハ... 依然ハ... 依然ハ...

詩意

道元といふも... 道元といふも... 道元といふも...

人といつど中くの... 深山... 深山... 深山... 深山...











巴東の二決つひに表後りり子親をく月橋の  
かろきと云け

雲埋老樹か山裏

彷彿子声一夜花

若山にち日の宗色を述、彷彿ハさしにうるとしむ  
こゝぬ山をくさし

詩意

おと暮のそよおよ風の風。古暖よ葉肥く。ゆきの  
山折付多。お月のころらひもしくよ。年々寝るん乃  
底の山。岩たにーいひの猿の声。名を譲るけ夕。かけ  
活よ登ど。心痛の男。只さくぬる。猿らも。海山  
片よ袖さしく。雲ハ約客の心。埋む。松もーて  
丁声の。木ま山をわとて。只子声ハ彷彿り。

長慶春

長慶ハ唐の穆宗の年号。穆宗ハ憲宗  
才の子

徐凝

徐凝ハ睦州の人。有詩名。詩集一巻  
つばきに才子留ま出る

山頭水色落荒烟

遠客新愁長苦年

穆宗在位四年。陳弘士に教さる。乱さけて睦州よか。山頭水色落荒烟と云  
君をささくまのそ

才上あ芳仍病酒

大枕窓下宵花眠

あ芳ハあ後の芳。病てほと禁ど。大枕ハ枕。窓下ハ窓下。花眠ハ花と  
さしけ。思和の化

詩意

山頭に水の色が落ちて荒煙。遠客の新愁は長苦年。  
うとく泳きて長苦山。多成定ぬる。若くは。立ゆき  
と母鳥ぬ。病のこぞ。名を保。酒にわし。心は情の。  
茶よ疲て目と送。あを。まよれ。ぬ枕の意。お  
記く。何の碑の色。見るよ。つけし。うと。や。と。花よ  
宵き。く一眠り。酒よ。胡蝶の。夢を。見す。

文句二首

文句は前ハ。あ後。首杜牧が化し。と云。況。う。と。云。ぬ  
且。建。文。句。の。首。百。篇。あり。後。首。不足。強。







蛇のなまざれて傳ふ火の虫。若の光のサシつゝ。蜂の  
窠ののびやうふ。あふ雲の流まきまき。藤の小世  
のよき吹て。おく白雲は火のあはれ。あが物よこ  
下をまよ。さぐりなれもあうらう。向と答つあ  
はなしの。わく口惜とす。園藤。ちびにわひひと  
碎れて。玉の階玉のな。森のうらりなる。花の色。  
涼まきあひ青き。天の河原よ岩のうら。さの  
一夜のつづ。花。さきとく我らう。やこて。あさう  
星に照さる。あう。しる。涙の袖。さあ。つひ  
て。さう。春。い。

城西訪友人別也

城西は河川の城西別墅に都外取巻土ヲ  
日野と名付たり

雍陶

字六国。約中八。年。自。園。子。を。持。持。士。あ。り。  
る。簡。引。刺。史。

澧水橋西小路斜

日高猶未到君家

澧水ハ在漢江外漢陽縣南水出嶺山  
ニのう別也とる詩

村園門巷多相似

安ら春風松樹花

このう田家村里の風情。安らうらうら。か。あ。ま。春。風。の。中。松。樹。と。花。と。  
別也との同情。松葉は。あ。ら。う。別也。に。あ。ま。う。ら。う。と。あ。ま。う。ら。の。ま。よ。う。と。あ。ま。う。ら。

詩意 村の西ときこゝへ。浮世の浮世の下やま。

門は並ぶく大井川。春に流るる花のた。遠く

友に松穀地。穀のちまき。このお似へ。春の房の

友鳥。さう。心まの風。あはれ。あはれ。あはれ。

貴池縣亭子

貴池縣は。池。外。一。葉。照。明。を。以。て。名。を。取。り。  
池。外。子。の。亭。子。

社牧 付記あま







